



上川井だより

令和2年10月30日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

11月号

やる気を引き出す

風がひんやりとしてきて、季節の移ろいを感じる頃となりました。

さて、去る10月18日、今年度全校で取り組む初めての学校行事、上小オリンピックを無事開催することができました。練習期間、体調管理をはじめ、支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。これまで、行事が次々と中止となり目標を見失いがちだった毎日が、運動会を前に生き生きと輝き始め、改めて学校行事の意義と学びの機会を痛感させられた一か月でした。

異例続きの今年度は、上小オリンピックも制約がある中の特別な運動会です。

6年生にとっては、小学校での最後の運動会であり、これまで目標としてきた思いがそれぞれの胸の中にあっただことと思います。ある子は、応援団長であり、ある子はリレー選手としての活躍であり、また別の子は、係活動で力を発揮することだったことでしょう。

ところが、感染症対策のため、諦めざるを得ないこともたくさんあり、一同に会するリスクを避けるために少ない練習回数での準備となりました。ややもすれば、やる気を失いがちになりそうな場面ですが、6年生が自分たちのできることを見つけて取り組もうと話し合い、短期間で準備し動いてくれました。「前日に石拾いやグラウンド整備をすることならできるんじゃないかな。」「スローガンを書き大きく書いて貼り出して盛り上げようよ。」「当日、旗を振って応援するなら、飛沫しないし、できるんじゃないかな。」

感染症対策がなければ、係を選び、仕事内容を教わって取り組む、いつも通りの活動でした。それぞれにやりたいことがあり、一生懸命取り組むことは同じですが、できることを自分たちで真剣に話し合い取り組んだのは、今回が初めてではないでしょうか。これまでの経験をふりかえり、条件と照らし合わせて取り組むことを決めて実行する、素晴らしい姿だなと感心しました。いつもできていたことができないという状況が、子どもたち自身の強い思いという主体性を引き出したのだと思います。「できることをやりたいという強い気持ち」が考え行動する力を高めた行事でした。多くの場で言われていることですが、いつもと違うということは、これまでをふりかえり、新しい一歩を踏み出す絶好の機会であると子どもたちに教えられた思いです。運動会後の振り返りで、「いつもよりプログラムが少なく、最初はどうかと思っていただけ、その分、集中することができてやりきったなと思えた。」「とにかく楽しかった。」と、充実感を味わえた子が多かったことも大変うれしかったです。

コロナ禍を境に、学校生活は大きく変わってきました。こういう状況だからこそ、「できないこと」を「やりたい気持ち」につなげて、「新たにできること」を創りだしていけるよう努めていきたいと思っています。今後もご理解、ご協力をお願いいたします。